

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2020年 第7週（2月10日～2月16日）

今週のコメント

～インフルエンザ～ 咳エチケット、手洗い、マスクの着用が重要

定点把握感染症

「インフルエンザ 今後の動向に注意」

第7週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は1,672例であり、前週比10.1%減であった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、突発性発しんの順で、定点あたり報告数はそれぞれ4.47、2.44、0.44、0.35、0.24である。

感染性胃腸炎は前週比7%減の881例で、南河内6.06、泉州5.70、大阪市西部5.33、中河内5.10、大阪市北部4.79であった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は11%減の481例で、南河内3.50、堺市3.47、北河内3.41である。

RSウイルス感染症は26%増の86例で、泉州0.95、大阪市北部0.71、大阪市西部0.67であった。

咽頭結膜熱は24%減の69例で、中河内0.55、泉州0.50、堺市0.42である。

インフルエンザは2%増の3,486例で、定点あたり報告数は11.62であった。大阪市西部17.21、中河内15.00、北河内14.29、南河内13.25、豊能12.59、堺市12.55であった。

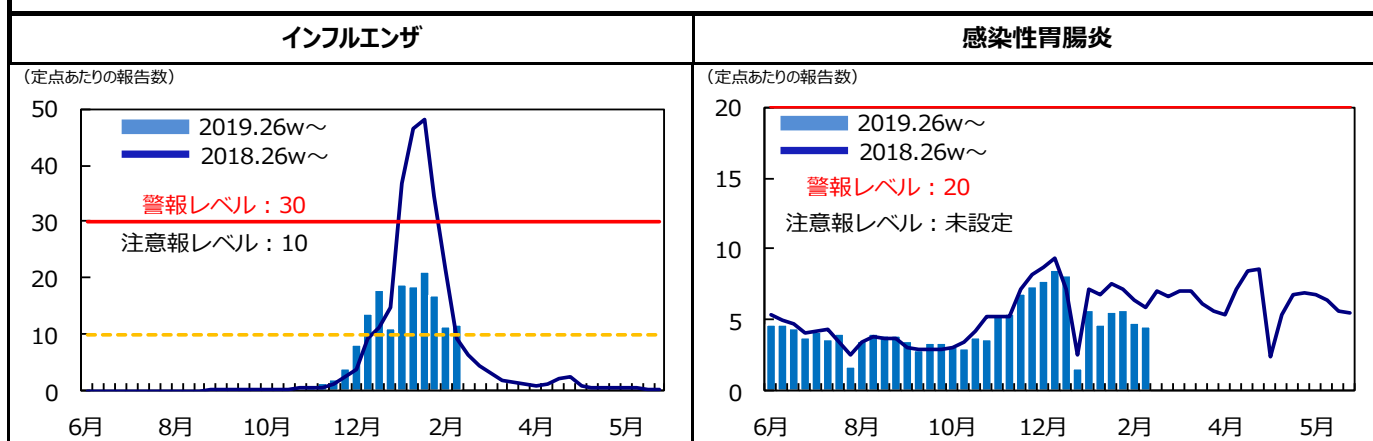


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2020年 第7週2月10日～2月16日）

第7週の 順位	第6週の 順位	感染症	2020年 第7週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2019年 第7週の 定点あたり 報告数	2020年第7週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	4.47	7%減	5.92	1歳_15%
2	2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.44	11%減	1.78	5歳_16%
3	5	RSウイルス感染症	0.44	26%増	0.79	1歳_31%
4	3	咽頭結膜熱	0.35	24%減	0.43	1歳_29%
5	6	突発性発しん	0.24	16%減	0.30	1歳_62%
参考		インフルエンザ (インフルエンザ定点報告疾患)	11.62	2%増	9.28	10-14歳_25%

第7週のコメント

～レジオネラ症～ 2019年の累積報告数は、133例でした。

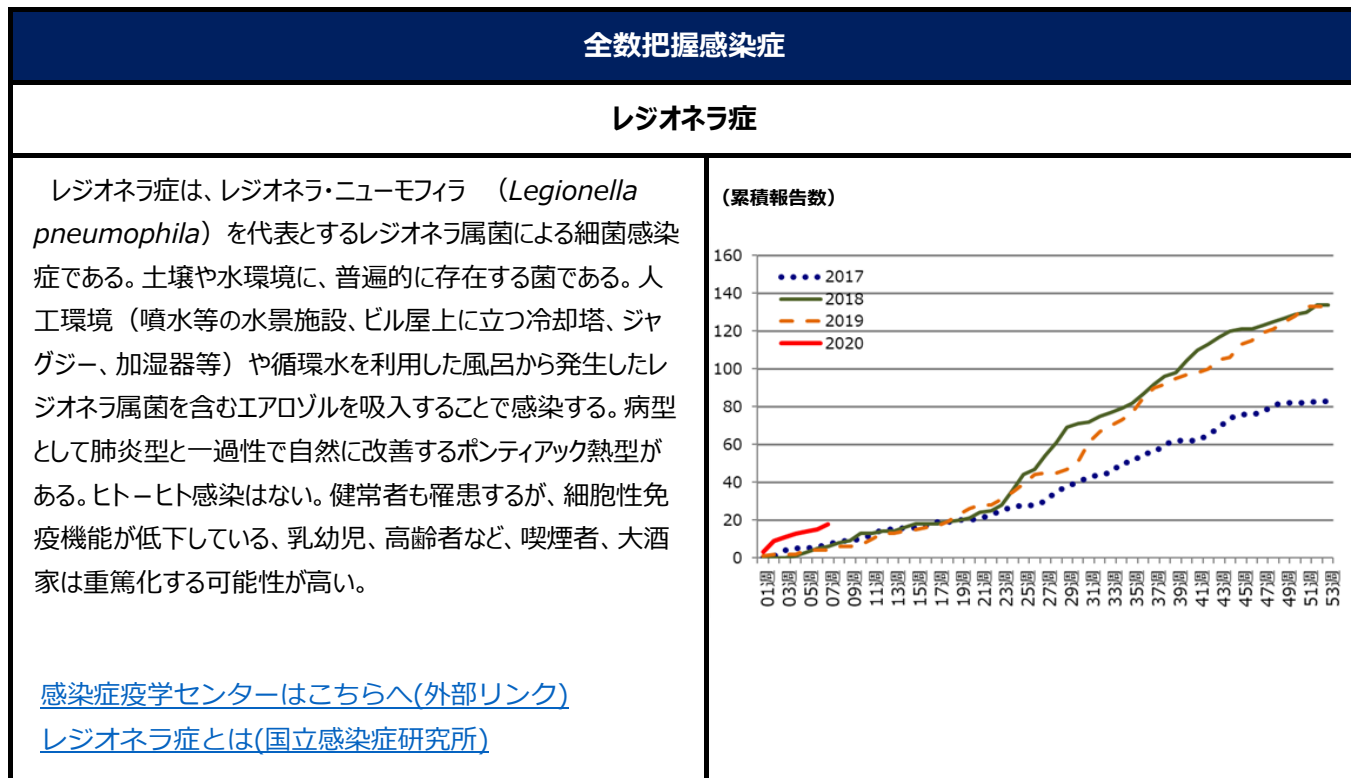


表2. 大阪府全数報告数（2020年 第7週2月10日～2月16日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
 （報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ＞【週報】発生動向調査＞全数報告 をご覧ください。
 新型コロナウイルス感染症は、指定感染症として定める政令が施行された2月1日以降の集計です。）

	疾患名 〔 〕内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告 数	豊 能	三 島	北 河 内	中 河 内	南 河 内	堺 市	泉 州	大 阪 市	府内 累 積 報 告 数
4 類感染症	マラリア（不明）	1		1							2
	レジオネラ症（肺炎型）	3			1				1	1	18
5 類感染症	アメーバ赤痢	2						1		1	5
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1					1				18
	急性脳炎	1	1								12
	後天性免疫不全症候群	3							1	2	18
	梅毒	6			1		1	1		3	116
	百日咳	3						1		2	34
結核 (2019年12月分)	結核 新登録患者数：145名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 52名) (府内累積報告数 1,636名、内 肺・喀痰塗抹陽性 638名)										

(2020年2月18日 集計分)